

早見弘名誉教授記念号の発刊にあたって

学長 山田家正

この度、商学討究第43巻第1・2合併号を発刊するにあたり、本学の発展に多大の貢献をされた小樽商科大学名誉教授早見弘先生の御業績を讃え、本号を「早見弘名誉教授記念号」とすることになりました。先生は1957年に御着任以来1991年3月に退官されるまでの34年の長きに亘り、経済学科に所属され、主として財政学担当の講師、助教授、教授として本学の教育・研究の発展に御尽力戴きました。この間、教授として重責を果たされた期間は20年に及びます。また、2度に亘り延べ2年間のアメリカでの研究生活等により国際的にも活躍されました。

先生は小樽のお生まれで、本学の卒業生であります。在学中は極めて優秀な学生であると同時に、ヨット部創設に参画され御自身も国体の選手としても活躍されたスポーツマンでもありました。本学卒業の後、一橋大学大学院で研究者としての道を歩まれ、母校に教官として戻られました。このような御経歴が示す通り、学生としてまた教官として40年近い年月をこの緑丘で過ごされたこととなります。文字通りの緑丘人と申し上げてよろしいでしょう。

先生はまた、本学のみならず、小樽市はじめ北海道の各種審議会等においても要職を務められました。数年前に消費税導入が問題となった折も公聴会等で積極的に発言されておられましたことは我々の記憶に未だ鮮明です。

先生は本学を離れられた後も研究者・教育者として御活躍中ですが、今後の益々の御健勝と御発展を祈念致します。この記念号の発刊をもって我々の先生に対する感謝の気持ちの一端とさせていただきます、同時に本号の発刊を小樽商科大学の更なる発展の一つの機会にすべきことを念じつつ御挨拶と致します。